

ウクライナ・スロバキアチーム

2017.9.4～2017.9.9

■佐田典子（TLCCCいのちの冠福岡教会・牧師）

主の御名をほめたたえます。皆様のとりなしを心から感謝いたします。9月4日～9日、ウクライナ・スロバキアチームが遣わされ参加する恵みに預かりました。聖所から流れ出る水ミッションの宣教チームが行くのは初めてで、ヨーロッパ宣教が新たな段階に入ったと感じました。



スロバキアの使徒団の教会で2ヶ所、ウクライナの新約教会1ヶ所で奉仕と路上ライブも行うことになっていました。ウクライナへの派遣が発表された直後から東京アンテオケ教会のホームページ等へのサイバー攻撃が繰り返され、ウクライナ東部の一部には外務省からの渡航中止勧告がでている等、緊張感がありましたが、「行きなさい。わたしはあなたを遠く、異邦人に遣わす。」(使徒22章21節)のみ言葉が、パウロ秋元牧師に与えられ、完全に守られて帰ってくることができました。

TLCCCプラハ教会のサリー&マレック宣教師を通して各教会との関わりが開かれましたが、TLCCC設立当初に「ヨーロッパ宣教は東欧から。」と預言を通して神様が語られ、数十年後の今、プラハの宣教師を通してウクライナ、スロバキアの道が開かれたことは、神の言葉の具体的な成就の中にあることを実感するものでした。またチェコ語訳の「預言—その実際と運用」(パウロ秋元牧師著)の本が道を開く一端を担いました。サリー宣教師達により預言の本がスロバキアの使徒団の教会のR牧師に読まれ、預言のセミナーを行う予定でしたが、賛美や証し、メッセージもできることになり、セミナーでは皆さんが熱心に耳を傾け、次々と人が増えて100名以上が集まりました。Iテサロニケ5章18節から語られた感謝のメッセージは多くの聴衆に深く入っていき、集会全体に働かれる聖霊の力の強まりを感じました。持参したチェコ語版の預言の本は16冊売れました。

スロバキアーウクライナ間は陸路で国境を往復しました。現地の牧師から所用時間は「10分から7時間」つまり全く読めない連絡があり、チームの朝の祈りの時、できれば20分で通過できるように祈りました。当日私たちのレーンは比較的車が少なく、私たちのミニバンが国境で登録されていたこともあり約40分でウクライナ入りできました。しかし反対側のレーンは長蛇の列で全く動かない現実を目の当たりにしました。帰りも1時間で通過でき、現地の牧師方からは「奇跡だ！」と驚かれ主をほめたたえました。

今回の賛美チームは浴衣を着て路上ライブする予定でした。ところが日本を発つ頃から現地の気温が下がり始め、最低気温10℃を下回り、最高気温も17℃前後、しかも雨の予報でした。最初の路上ライブで準備をしている時は小雨がぱらついていましたが、いざ始めるとすっかり上がって、暖かくなりました。証しや伝道メッセージもすることになり路上ライブが伝道集会になりました。日本人も浴衣も珍しいらしく2回行った路上ライブでは多くの人が集まり、日本語のJゴスペル、

特に「God is love」が大人気で、ウクライナでは男性が一人救われました。

最終日に訪れた教会は、スロバキア全体の使徒団教会をカバーするスロバキア最大の教会でした。長老の方々とミーティングが行われましたが非常に好意的にチームを受け入れてくださり、当初は30分間、奉仕する時間を頂く予定でしたが、自由に賛美やメッセージをできるようになりました。実は最初の使徒団の教会での集會に、この教会の牧師の方達が出席されていて心を開かれたのがきっかけでした。平日でしたがたくさんの方が集まり、終始泣いている人々もおられました。

チームの帰国日には訪問した牧師の方々からぜひまた来て欲しいと連絡が入り、今後の神の計画がどう展開するか楽しみです。すべての栄光を主にお返しします。

■岡本りょうこ

(TLCCC 東京アンテオケ教会)

皆様の断食をもってのとりなしのお祈りを感謝いたします。無事にウクライナ、スロバキアにチーム全員で行き、帰ってくる事ができました。個人的には、久しぶりの海外宣教チームの参加となりました。今の仕事に就いてから、連休を取ることができない会社で、今まで何度トライしても海外宣教チームに参加するためのお休みをいただくことができませんでした。主は、みことばをもって語ってくださっていました。

「わたしはあなたを遣わします。」それがいつなのかはわかりませんでした。みこころの時に主は必ず道をひらいてくださることを信じました。「次に海外宣教に行くときは、本格派遣チームに参加できますように。」その祈りを主は答えてくださり、仕事のお休みをいただくという一番不可能だった壁でしたが、上司、部長、カンパニー長、全員の方が承諾してくださいました。

足りていなかった経済も、献金をとおして与えられ、次々と道をひらいてくださっている主のみ手を感じる事ができました。今まで、海外宣教チームのお休みが取れず、参加できなかったのは、まるで自分の信仰が足りないからだ、いつも自分で道をこじ開けるように頑張ってきていたが、みこころの時、みこころの宣教チームは主の方でちゃんと用意しておられるのだと、神様のみ手にゆだねるということ、改めて、はじめに教えられた派遣となりました。

今回は出発前にウクライナからのサーバー攻撃がゆるされたこともあり、派遣中も、路上ライブや教会奉仕中のリアルタイムでのブログアップはストップとなりました。場所が特定されないようにとのことで、本当に、何が起ってもおかしくない宣教となるのだなと思われました。

もし路上ライブをしている時に襲われたら、もし教会のご奉仕中に襲われたら、もしトルコのクーデターのようなことが起こったら、と様々なことを考えさせられ、銃を向けられたら自分は信仰を守れるか。など、何度も自分に問いかけました。「何が起っても、神様に従うことができますように。」と、ただ主に祈りました。しかしその中で、主はチームを完全に守ってください、皆様のとりなしがあり、すべての奉仕が守られ、祝福され、誰ひとり欠けることなく無事に帰ってこれたことを主に心から感謝しました。

この派遣チームに参加する2週間ほど前に、「夜明けの祈り」という映画を見ていました。ポーランドの修道院で起きた、第二次世界大戦の衝撃的な事実を描いた映画でしたが、その映画のパンフレットを読んでいた時に「殉教の町ワルシャワ」という言葉が目飛び込んできて、どうしたものかその言葉だけが不思議とずっと心に残っていました。

9月4日出発のフライトの時、トランジットがポーランドのワルシャワであったことに驚いたのと同時に、そのワルシャワの空港で賛美を捧げることができたことに、特別な主の導きを感じました。

空港には、すごく立派なグランドピアノが置いてあり、そのすぐ横の看板には「自由にお弾きください。」「あなたのショータイムです！」という言葉が書いてあり、路上賛美リーダーの榊さんのご提案のもと、堂々とみんなで賛美を歌うことができました。かつて霊の戦いがされたポーランドの地で、空港でこうやって賛美が捧げられたこと、東ヨーロッパから西ヨーロッパへと入って行く宣教の働き、主のご計画に、期待と不思議な摂理を感じさせられました。

ウクライナ・スロバキアチームでは、様々な祝福と素晴らしい働きがあらわされましたが、個人的には、非常に弱さを主に教えていただいた派遣となりました。自分で気づいていなかった弱さや心の高さ、ふさわしくないということ、たくさんの悔い改めが導かれて行きましたが、その一番弱められていた帰りのフライトの時、召しに関してのみことばが与えられていきました。これから始まる本格的な神様の働きのために、主は必要な整えを与えてくださったのかなと、主をあがめました。皆様のとりのしのお祈りを、本当にありがとうございました。主のみ名をあがめます。